

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

公明党彦根市議団 徳永 ひで子 、上杉 正敏

(2) 実施日：平成25年11月26日（火）・27日（水）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

1点目の食に関する取り組みにおいては、ひこね井など特産物を活かした食品を市内から公募し、それを目玉商品として限られた店舗で提供している。

2点目のまちなか活性化事業の取り組みであるが、これはキャッスルロードに見られるように市内の一部のエリアを江戸時代の町並みに作り替え、他市から来られる観光客に、昔の風情を彦根城と共に味わってもらっている。

(2) 本市における課題

1点目の食に関する取り組みは、ひこね井のPR不足に加え地産地消が進んでいない。

2点目のまちなか活性化事業は、一部のエリアに限定され昔からの商店街まで及んでいないのが現状である。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目： 気仙沼市は「スローフードについて」、佐野市は「中心市街地活性化事業」を調査項目に挙げた。

(2) 選定地1：宮城県気仙沼市

選定地2：栃木県佐野市

【3. 調査結果】

(1) 内容

気仙沼市は東日本大震災で地場産業である漁業が、一時壊滅状態であったが現在復興の最中である。その中で、地場産業である漁業を活かし「気仙沼スローフード」都市宣言をされた。地場産業を伝統的な食材や料理を活用しこれを市内に留まらず全国へ発信しようとされている。

佐野市は彦根市との姉妹都市でもあり人口も12万人とほぼ同じである。今、庁舎は東日本大震災での影響で新築中である。現在市の業務は、3か所に分かれ執行されている。その中で中心市街地活性化事業として、まちなか活性化ビル「佐野未来館」があり、1階は地元出身で人間国宝の田村耕一陶芸館、2階は市民ギャラリーとして市民に開放し、3階はショップフロアとして起業者に無料で貸しだしている。

(2) 考察

気仙沼市においては、伝統の食文化を生かし、震災でまだ進まない復興のハンデを乗り越え、街あげて取り組んでいる姿を肌で感じた。

佐野市においては、地元に係わりのある著名人を上手く活用され、市民と行政が近くにあることを強く感じたのと、これといった産業が無いにも関わらず市民に対する支援が進んでいる点を参考にしたいと思った。また、今年のゆるきゃらで「さのまる」がチャンピオンになったことを報告して考察とする。